

第 2 回実践観光学習・見学会レポート

凸版印刷 VR シアター

東京都公立大学法人では、著名な講師の方々から観光についての大局観や専門知識を学ぶ「観光戦略研究会」と併せて、実際の現場を訪ねて見学することを目的とした「実践観光学習・見学会」を不定期で実施しています。

最終年度となる今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光産業がこれまでに経験したことがない甚大な打撃を受け、依然として厳しい状況にあります。こうした状況下で、観光産業の活路として注目されているマイクロツーリズムやテクノロジーの活用の可能性を探る見学会を3回にわたり実施致します。

2020年11月6日（金）、凸版印刷株式会社様のご協力を得て、今年度2回目の実践観光学習・見学会を開催しました。トッパン小石川ビル内にある印刷博物館とVRシアターを見学し、凸版印刷株式会社様の取り組みについてお話を伺いしました。

印刷博物館

凸版印刷の創業 100 周年記念事業の一環として設立された印刷博物館。印刷の起源から最新の印刷技術まで、印刷に係るさまざまなコレクションが展示されています。開館 20 年を迎え、1 ヶ月前の 2020 年 10 月 6 日にリニューアルオープンしたばかりです。

今回のリニューアルで、広く世界に目を向けつつ、先人が培ってきた日本における印刷文化の歴史的変遷を中心とした展示に大きく刷新されました。併設の印刷工房では、実際に活版印刷を体験することができます。



VR シアター

凸版印刷では、1997年よりVR技術の研究開発を開始。これまでに50作品以上の作品を製作してきました。VRシアターには、幅12m、高さ4mのカーブドスクリーンが採用され、水平方向の視野角が120度あるため、映像の中に入り込んでいるかのような没入感を体験できる仕様となっています。



写真提供 / 凸版印刷株式会社

凸版印刷の取り組み

講師：文化事業推進本部 文化事業企画部 文化事業企画 1T 課長

矢澤 英孝様



トッパン文化財 VR

長年、印刷会社として培ってきた「カラーマネジメント技術」、「高精細撮影技術」、「大容量画像処理技術」をベースに、デジタル保存、可視化・資源化を経て、公開・活用したのがトッパン文化財 VR です。これまでに国内外の世界遺産や国宝などの貴重な文化財を VR 化し、約 20 年間で 50 作品以上の VR 作品を製作してきました。

2000年より、中国の故宮博物院に「故宮文化資産デジタル化応用研究所」を設置し、凸版印刷が開発したVRなどの技術を用いて、故宮の古代建造物や文化財を保存・公開するプロジェクトを故宮博物院と共同で実施しています。

2018年には、日中平和友好条約のイベントの一環として、李克強総理と安倍首相(当時)にも「トッパンVR」の技術を体験してもらうなど、日中の文化交流の懸け橋としての役割も担っています。

トッパン文化財VRの活用

トッパン文化財VRの技術はイベントやセミナー、観光、教育など、様々な場面で活用されています。ビジネスマン向けに開催された六本木のアカデミーヒルズでのセミナーでは、「唐招提寺」の僧侶が境内のVR映像を実際に操作しながら解説するといった演出で使用されたり、東京国立博物館では、東寺講堂に安置されている立体曼荼羅のVRを活用したトークイベントが開催されたりしています。

そのほかにも、朝日出版社の「折る土偶ちゃん」とのコラボレーション企画で夏休み中に親子を集めた VR トークイベントと親子折り紙教室の開催、外国人向けには、VR を駆使して江戸時代にタイムスリップした感覚を味わいながら落語を聞くイベントを開催しました。また、コニカミノルタプラネタリウムでの全天周映像システムでの上映や、ハウステンボスでのスケートリンクへの投影にも活用されました。

コンテンツ利用以外にも、データをデジタル保存していたことによって、熊本地震で崩落した熊本城の石垣復旧に際し、熊本大学と共同開発した石垣照合システムを用いて、復旧支援に貢献しています。

Profound Tourism

凸版印刷では、トッパントラベルサービスと協働し、デジタル（VR）×リアル（実物）による新しい文化体験の提供により、日本文化を深く知り、学び、感じてもらう取り組みも実施しています。

観光はリピーターづくりが必要不可欠で、「また来たい」と思ってもらうためには、より深く知ってもらうことが重要と考え、Profound Tourism という取り組みを始めました。

企業向けには、SDGs 研修、チームビルディング、外国人社員向け研修、VIP 向けホスピタリティプログラムなど、様々な内容のコンテンツを提供しています。また、コロナ禍における新しい体験価値を提供するため、現地に行かなくても日本の伝統文化を楽しめるオンラインツアーへの取り組みも始めたところではあります。

凸版印刷が目指す姿

デジタルアーカイブによって文化財の保存をし、VR コンテンツで収益を得て、その収益により文化財の保存・修復をするという文化財保護の好循環のサイクルを回すことを目指しています。

また、文化財、ストーリー、ヒトをデジタル技術の活用で魅力的に発信し、海外へのオンライン文化体験の提供と商品販売を組み合わせ、将来的な訪日を

喚起したり、東京に VR 映像を視聴できるスポットを作り、VR 映像を見ること
によって東京を訪れた訪日客を地方に送客したりする取り組みをこれから提案
していきたいと考えています。